

感染症情報 9月16日～22日

府下小児科196医療機関(堺市19)から

①RSウイルス感染症	832例(堺市	89例)
②感染性胃腸炎	685例(堺市	43例)
③溶連菌感染症	281例(堺市	22例)
④手足口病	239例(堺市	13例)
⑤ヘルパンギーナ	132例(堺市	15例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	115例(堺市	5例)
---------	---------	-----

感染症報告数は前週比13.8%減の2,499件であった。

報告数の第1位はRSウイルス感染症で、以下、感染性胃腸炎、溶連菌感染症、手足口病、ヘルパンギーナの順であった。

RSウイルス感染症が府下で5%減、堺市で96例→89例(7%減)であった。府下の定点あたりは4.25、同堺市で4.68である。感染性胃腸炎は府下で前週と比較して8%減、堺市では12%減であった。溶連菌感染症は府下で25%減、堺市で47例→22例は53%減であった。手足口病は府下で8%減、堺市で17例→13例であった。ヘルパンギーナは府下で35%減、堺市で19例→15例であった。

インフルエンザが府下で前週105例→今回115例は10%増で、定点あたり0.38である。堺市では前週3例→今回5例であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。